

野菜用高速局所施肥機を用いた畝内二段施肥

○作物の生育ステージに合わせた効率的な局所施肥により施肥量の削減が期待。

- ・持続可能な環境調和型農業への貢献： 局所施肥による肥料の流亡防止、施肥量の削減
- ・生産者に与える影響： 肥料コストの削減、畝立て・施肥作業時間の削減

畝内二段施肥

- 畝内の上下二段に施肥を行うことで、定植後の生育初期と中後期の生育に対応
- 局所施肥で起こりやすい濃度障害や初期生育不良を回避
- 全面全層施肥や従来の局所施肥より減肥可能

野菜用高速局所施肥機

- 台形状の畝を形成し、畝内の上下2段（天面より深さ約3～8cmと15cm）に筋状に肥料を落とす
- キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー等の露地野菜に対応し、傾斜地でも高精度に施肥できる
- 最大1.4m/秒の高速作業により、従来機と比較して約2割の作業能率の向上が期待できる



試験事例

- キャベツの減肥栽培試験（群馬県、品種：初恋）

試験区	試験結果（g）		慣行比
	平均結球重	標準誤差	
①慣行施肥	1,468	141	100
②二段施肥（2割減肥）	1,481	76	101
③二段施肥（3割減肥）	1,562	84	106

※慣行施肥：畝天面施肥＋下層の局所施肥

慣行比 3 割減でも同等以上の結球重

詳細情報

- 農研機構 標準作業手順書：
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/155166.html
- 本機は上田農機(株)、(株)タイショーから販売されている

出典：農研機構